

私ども日本昆劇之友社と京都江南絲竹会はこれまで二十年あまり活動を続けて来ましたが、このたび中国から、著名な笛師すなわち昆劇の伴奏者である銭洪明先生とそのご息女で昆劇女優として活躍されている銭冬霞さんをお迎えして、演奏会を開くこととなりました。

演目は、六百年にも及ぶ昆劇の歴史の中でも屈指の名作とされる『牡丹亭』の中から、とりわけ有名な「遊園驚夢」「尋夢」「写真」「離魂」各段を、歌とせりふさらにはしぐさからなる、本格的なお芝居に加え、歌のみの清唱を交えたスタイルでお聞きいただけます。

【昆劇について】
中国には日本でも良く知られた京劇のほかに、たくさんの伝統演劇のスタイルがあります。その中でも昆劇（昆曲）は、最も長い歴史を持ち、ユネスコの無形文化遺産にも中国を代表する伝統演劇として挙げられています。蘇州に近い昆山で生まれ、江南一帯で愛されたこの演劇は、何よりも上品な美しさがその特徴です。一昨年には坂東玉三郎が蘇州昆劇院とともに『牡丹亭』を演じ、話題になりました。

【物語】
明代最高の劇作家湯顯祖（一五五〇—一六一六）の代表作、『牡丹亭』は中国の戯曲作品の最高峰として古来もてはやされてきました。若い男女の恋愛を描く、いわゆる佳人才子劇のスタイルをとってはいますが、全五十五齣からなる長大な作品で、奇想天外な構成をとり、現実と夢、生と死の交錯のうちに極めて甘美な世界を描いています。

主人公は深窓の令嬢杜麗娘と科擧をめざす若い知識人柳夢梅の二人、春のある日、うたた寝の夢の中で、杜麗娘が若い男性と契りを交わし、やがて恋いがれて死んでしまうというのが物語の発端です。その夢に現れた若い男性が柳夢梅なのですが、実は彼自身も、梅の木の下に立つ美女の姿を夢に見て、夢梅と名乗っていたのです。その後、彼女が死を前にして描いた絵姿を彼が拾い、その美しい女性を日々思ううちに、その想いが通じて、彼女の幽魂が人のかたちとなって現れ、ふたたび彼らは結ばれます。そして、柳夢梅の助けにより、杜麗娘は墓からよみがえり、さらに幾多の困難を乗り越えて、めでたく夫婦となる、というのがこの作品のあらましです。

【ゲスト】
銭洪明 一九四六年生まれ。江蘇省昆劇院の首席笛師として、日本でも有名な張継青の伴奏を長らくつとめられ、一九八六年の江蘇省昆劇院来日公演では、音楽監督として絶賛を博しました。近年は、北京で公演中の『庁堂版 牡丹亭』の笛師としても活躍されています。

【会場】 京都教育文化センター
(京都市左京区聖護院川原町 Tel.075-771-4221)



◆京阪「神宮丸太町駅」より
5番出口徒歩3分
◆JR「京都駅」より：市バスD2のりば206系統で熊野神社前下車、徒歩5分
◆阪急電車「四條河原町駅」より：市バス201・31・203系統で熊野神社前下車、徒歩5分

主催：京都江南絲竹会 (Tel.077-523-6177)